

平成生まれの新成人誕生

1月11日、市成人式が市内6カ所で開催され、訪れた新成人は両親や恩師などへ、感謝の思いを伝えるとともに、成人としての門出を祝い合いました。

ことしは、平成生まれの新成人が初めて誕生した年で、自らが企画立案し開催する式典には、541人の新成人が出席しました。学生時代に撮影した思い出の写真のスライド上映やビデオ上映、子どものころに作成したタイムカプセルの開封など、特色ある催しが行われ、式典を盛り上げました。



会場の前で記念撮影をする新成人たち

どんど焼きで安全祈願



燃え上がる炎を眺めながら無病息災を祈る

飯地町の新春恒例行事「どんど焼き」が、しでこぶしの里悠楽館前で行われました。これは約15年前、同町小学校での正月行事として開催し、以後、町内行事へと規模を広げ、現在では飯地町まちづくり委員会（柘植静一委員長）が主体で行っています。この日は、強風が吹き付ける厳しい寒さの中、ヒノキの廃材や竹、地域で飾られた門松や児童らの書き初めなどを燃やし、大きな炎と舞い上がる灰を眺めながら、地域の安全と無病息災を祈りました。

フィギュア教室でポーズ

県クリスタルパーク恵那スケート場で、県スケート連盟普及部の方々に講師に迎え、1月12日に第2回フィギュアスケート教室が開催されました。この教室は、フィギュアスケートの楽しさを知ってもらい、競技人口の拡大につなげようと企画されました。当日は降雪など、あいにくの天候でしたが、県内はもとより愛知県や長野県から、小学生以上の初心者48人が参加。参加者はフィギュアスケートの姿勢などの基礎技術を、熱心に受講していました。



講師の前で片足でのポーズを見せる参加者

中山道甚平坂を走り初め



元気よくスタートを切る選手たち

1月11日、中山道甚平坂公園マラソン大会が行われました。甚平坂公園のPRも兼ねた同大会は、今年で22回目を迎え、子どもから大人まで約100人が参加しました。

小学生の部に参加した選手の一人は、「上り坂がえらかったけど、最後まで走り切れてうれしかった」と笑顔で話してくれました。コースは2.5キロ、3キロ、4キロの3コース。起伏の激しいコースにも、参加者は全力で走り切りました。

出初式で「トビはしご登り」

1月4日の晴天の中、平成21年恵那市消防出初式が開催されました。式典は恵那文化センターで、来賓、消防関係者の約1,100人の参加で行われました。その後、恵那駅前中央通りで、消防団、まとい会、少年消防隊、女性防火クラブなど総勢2,081人による分列行進や、トビはしご登りがありました。

伝統の「恵那トビはしご登り」は、10基の迫力ある演技を披露。集まった多くの観客からは、大きな拍手や歓声が起こり、通りに響き渡りました。



恵那トビはしご登りの迫力ある演技

和太鼓で元気なまちに



和太鼓コンテストの結果を報告する加藤拓三さん④

活動拠点を米国からふるさと恵那に移した和太鼓奏者の加藤拓三さん。8月に東京で行われた「第7回東京国際和太鼓コンテスト太鼓部門」で受賞した最優秀賞と、市内の各家で行う1,000回の和太鼓ライブの計画などについて可知市長に報告するため、12月12日、市役所を訪れました。

加藤さんは「和太鼓の演奏で、皆さんに『温かみ』を伝えていきたい。家庭を温かくして、ひいては恵那市を明るくしたい」と意気込みを語りました。

雅楽の保存伝承に表彰

岩村雅楽保存会会長を務める加藤好巳さんが、県伝統文化継承者顕彰を受賞し、1月9日、可知市長へ報告に訪れました。これは、伝統芸能の保存や継承に50年以上活躍している75歳以上の方を表彰するもの。加藤さんの雅楽歴は62年。その間、同町の小中学生を対象に少年少女雅楽クラブを立ち上げ、現在も指導に当たっています。加藤さんは「後継者がどんどん増えるよう、子どもたちの指導を頑張りたい」と、さらなる意欲を述べました。



受賞報告に訪れた加藤好巳さん④

絵と語りと演奏でつづる



お話の世界をスライドと語りと生の演奏で表現

ブックサポーターかみやまの主催で、絵と語りと演奏でつづる「くるみわり人形」が、12月20日に上矢作公民館で開催されました。

絵は恵那市出身の中山尚子さん、語りは加藤純子さん、演奏はアンサンブル・ジョーカーが担当。この絵と語り、そして生の演奏による絶妙なアンサンブルを、集まった親子約200人は、始まりから終わりまでしっかり見て、聞いて、くるみわり人形の世界を楽しんでいました。

「広重の富士」

中山道広重美術館
展覧会

会期
2/26(木) ~ 4/5(日)
開館時間 午前9時半
~午後5時(入館は午後4
時半まで)
観覧料 ▷大人=500円
(団体400円) ▷小・中・高
校生=300円(団体240円)
春休み期間中の小・中・
高校生は観覧無料
毎週月曜日(祝日を除く)
祝日の翌日(土日・祝日を除
く)休館。
問い合わせ 中山道広
重美術館☎20-0522



歌川広重「富士見百図」
1857(安政4)年改印、
1859(安政6)年序
田中コレクション

広重が富士を描いた絵本『富士見百図』には、風景画の巨匠・北斎に対する対抗心が感じられる「ある記述」がみられます。この展覧会では、本書のレプリカを手にとってご覧いただくことができます。

3月1日は市民の日 毎月第1日曜日は「市民の日」とし、市民に限り観覧を無料としています。気軽に美術の世界に触れていただき、美術を中心とする文化活動やまちづくり活動の拠点に活用いただけるよう、願っています。

文化財を巡る 古代の恵那～二つの古代寺院(その2)

飛鳥池遺跡の木簡と恵奈六郷

奈良県明日香村の飛鳥池遺跡で出土した木簡(荷札)から、7世紀後半には恵奈郡はなく、土岐郡の一部として恵奈郷があったことが分かりました。その場所は、後の郡が置かれたときに最も代表的な郷の名前を取ったものとする、当時の郡の中心地域に求めることができます。その候補地は、8世紀に古代寺院があった長島町の正家廃寺一帯と山岡町の手向廃寺一帯の2カ所がありますが、後者は、恵奈六郷のうちの淡気郷としてほぼ間違いのないので、前者とするのが妥当であると考えられています。

平安時代中期の漢和辞書である『和名類聚抄』では、恵奈郡内に6つの郷を掲げており、その位置については、現在の通説では、下記のようになっています(図参照)。

淡気郷：山岡町・明智町を中心とする恵南地区西南部
安岐郷：岩村町・中津川市阿木を中心とする阿木川上流地域

絵上郷：藪原・宮の越中心の里と須原・野尻中心の里からなる木曾谷の大部分

絵下郷：坂下町を中心とした恵北地域

坂本郷：神坂峠の麓の神坂、落合、中津川、坂本の地域
竹折郷：大井、武並を中心とする地域

これに対し、『恵那市史』では、古墳時代や古代の遺跡の分布のあり方などから、異なった仮説を提案しています。飛鳥池遺跡で出土した木簡(荷札)に記された内容は、その仮説を裏付ける重要な資料となったのです。(つづく)

問い合わせ
文化課 ☎43-2112(内線217)



通説による恵奈六郷の位置(『恵那市史通史編第1巻』より)

三郷小で中国児童と交流

中国浙江省嘉興市にある嘉興南湖国際実験学校の小学生2年生から5年生までの児童47人が、1月19日、三郷小学校を訪れ、両校の児童による学校交流会が行われました。

この交流会は、嘉興南湖国際実験学校が修学旅行の一環として行われたもの。交流会では、三郷小学校全児童137人が参加し、校歌の合唱と3・4年生による花笠音頭、5・6年生によるよさこいソーラン踊りの中の「よっちょれ」を披露しました。



交流会で校歌を歌う嘉興南湖国際実験学校の児童

青邨の掛け軸が市の宝に



青邨の作品「闘鶏」を寄贈いただいた三尾葉さん(左)

1月15日、長島町在住の三尾葉さんから、前田青邨の作品「闘鶏」を寄贈いただきました。

三尾さんは、郷土の画家「町野華城」の孫。華城の妻のいとこ青邨は、華城が東京で営んでいた下宿屋「東濃館」に身を寄せていて、「闘鶏」はそのお礼として贈られたもの。三尾さんは「多くの皆さんに見ていただきたい。今後も華城の作品展には、一緒に展示してほしい」と話していました。この作品は、中山道広重美術館で2月22日まで展示しています。

恵那でインターハイ開催

1月19日から22日の4日間、インターハイスケート競技選手権大会が恵那スケート場で開催され、全国トップレベルの高校生選手が日本一を目指して競技に挑みました。

市内からは12人が出場し、自己ベストを記録する選手もいましたが、残念ながら入賞には届きませんでした。しかし、スケート場オープン以来、市内小中学生の選手も増えており、今後このスケート場を拠点に新たな強豪選手が育つことが期待されます。



男子500mに出場した光岡知成くん(中京高校1年)

自作の茶碗で茶道を体験



地域講師の水野さんと茶道を体験している生徒

山岡中学校1年生61人が、1月19日に自作の抹茶茶碗を使った、茶道教室を行いました。教室では、地域講師の堀春枝さんと水野恵子さんが、茶道の歴史などを説明した後、作法について実技を交えながら、手ほどきをしました。使用した茶碗は、1学期から作り始め、10月に登り窯で焼成したもので、個性のある形や色の力作ぞろい。生徒は抹茶を飲み「苦いけどおいしい」と話しながら、「茶道」という感性を養う日本文化を学びました。